

# 祭神

鶴崎神社に祀られている神様は大吉備津彦命と荒魂である。

大吉備津彦命は、第七代孝霊天皇の第三王子で五十狭芹彦命とも呼ばれ、第十代崇神天皇の御代に朝廷から四道將軍の一人として吉備国へ派遣され、異母弟の若日子建吉備津日子命と共に、当時の吉備国を支配していた蟹梟帥（温羅）を討つて平定し、その後吉備国に居を構え、二八一歳の長寿を保つたとされる。

命の死後は、吉備の中山の茶臼山に古墳が造られ埋葬された。更に命の神威を拝するため吉備津神社を建立し、神として祀った。

古事記には比古伊佐勢理毘古命またの名を大吉備津日子命、日本書紀には吉備津彦命及び五十狭芹彦命と表記されている。

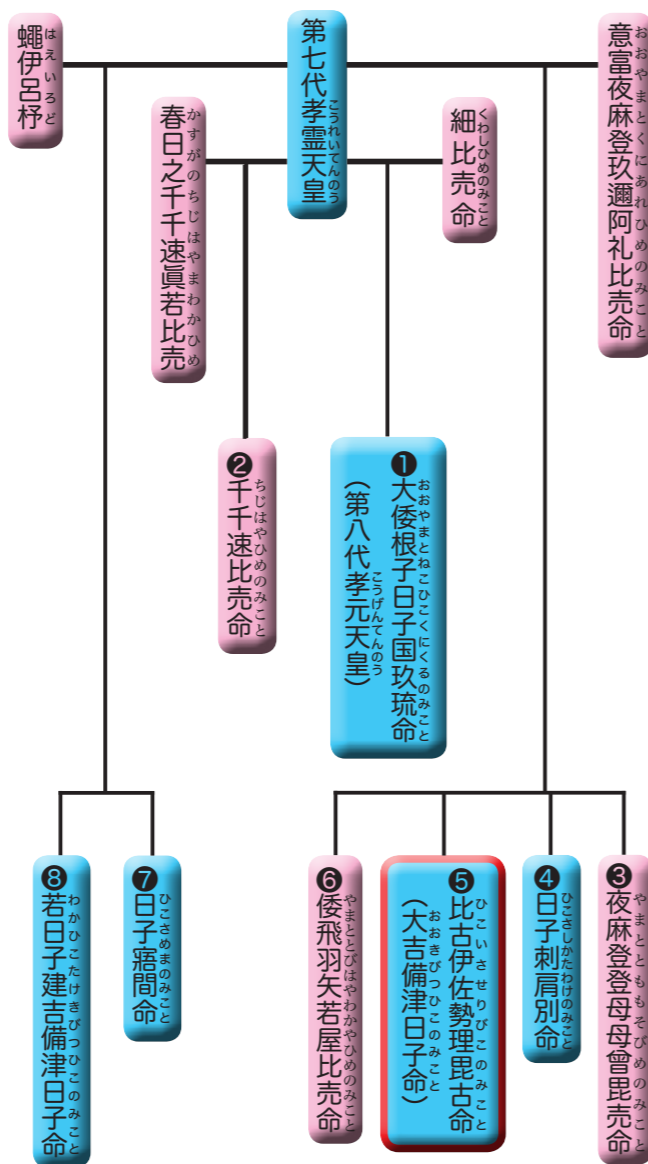
当社には、貞和六年（1350）二月二十一日大吉備津彦命荒魂（丑寅御崎大明神）として吉備津神社（岡山市吉備津）から勧請された。

## 記紀に記述されている吉備津彦命

古事記中巻孝霊天皇の条に、『大吉備津日子命と若日子建吉備津日子命は、針間（播磨）の水河（加古川）の岬に瓶を据えて神をまつり、針間を道の入り口として吉備国を言向け平定した。』と記されている。

また、『大吉備津日子命は、吉備上道臣の祖

## 吉備津彦命の系譜（古事記）



である。次に若日子建吉備津日子命は、吉備下道臣、笠田の祖である。次に日子刺肩別命は、高志（北陸地方）の利波臣、豊国（大分地方）の国前臣、五百原君、角鹿海直（敦賀の海事役人の祖である。』と記してあり、吉備津彦命と異母弟の若日子建吉備津日子命は、後に吉備の豪族となった吉備氏の祖とされる。

一方、日本書紀巻第五崇神天皇の条には四道將軍として吉備国を平定したと次のように記されている。『天神地祇を崇敬して、災害はみな



吉備津彦命の御陵（吉備の中山）

消え失せたが、朝廷の命に従わない者がいたため、九月丙戌朔甲午（九日）に、大彦命（孝元天皇皇子・開化天皇の兄）を北陸道に遣わし、武渟川別を東海道に遣わし、吉備津彦を西道（山陽道）に遣わし、丹波道主命を丹波（山陰道）に遣わされた。そして詔して、「もし教えを受け入れない者があれば、ただちに兵を差し向けて討伐せよ」と仰せられた。こうして、四人の者にそれぞれ印綬を授けて、將軍に任命した。

その時、孝元天皇の皇子武埴安彦が妻の吾田媛と謀つて都を襲おうとしたため、五十狭芹彦命は天皇の命を受け吾田媛とその殘党も討伐した。内乱もおさまったので四道將軍は四道に分かれて出発した。

十一年四道將軍は各地方を平定したことを朝廷に報告した。

吉備津彦命はその後、武渟川別と共に出雲振根を討つた。』

### 孝霊天皇

第7代天皇で、大倭根日子賦斗邇命とも呼ばれ、ご在位は紀元前290年1月12日～紀元前215年2月8日。御陵は片岡馬坂陵（奈良県北葛城郡王寺町本町）

### 崇神天皇

第10代天皇で、御眞木入日子印惠命とも呼ばれ、ご在位は紀元前97年1月13日～紀元前30年12月5日。御陵は山辺道勾岡上陵（奈良県天理市柳本町）

## 時代考証

当社の祭神である「大吉備津彦命」は古事記、日本書紀にその記述が見える神であるが、その史実に基づいた具体的な年代を考証するには「日本書紀」がその手掛かりとなる。

日本書紀は、完全な編年体史書で、神代紀を除いたすべての記事は、年・月・日（えと）の様式で記載されているため、記述されている出来事の年月日まで計算し、特定できる。

日本書紀巻第三神日本磐余彦天皇の記述に「辛酉年春正月庚辰朔天皇檀原宮に即位」とあり、第一代神武天皇（神日本磐余彦天皇）が即位した日は、紀元前六六〇年二月十一日、これが日本の建国となる。

天皇の在位は日本の建国とされる紀元前六六〇年二月十一日（皇紀元年）にもとづき、日本書紀に記述されている天皇即位の年を割り出し定めている。

日本書紀によると吉備津彦命は第七代孝霊天皇の御子で、第十代崇神天皇の御代に吉備国を平定したと記されており、この時代は約一三〇〇年間（1000年BC～AD300年）続いたとされる弥生時代の中期にあたる。

この頃には既に有力な豪族が現れ、わが国最初の統一政権である大和朝廷の黎明期

## 荒魂

神の御魂には荒魂の働きと、和魂の働きがあり、和魂には更に幸魂と奇魂という二種類の作用がある。この四種の魂を合わせて四魂という。

### 荒魂

神霊の機能としての、荒々しい側面を持つ。台風や洪水といった自然災害に代表される怒れる神の魂。

### 和魂

荒魂に対するもので、神霊の機能としての、人間に対する平和的側面を持つ。雨や日光の恵みなど穏やかな神の魂。

### 奇魂

和魂の一つで神の奇跡。神霊の機能として、特に医薬の分野で用いられ、人命に対する神の魂。

### 幸魂

和魂の一つで豊穰・豊漁など。神霊の機能として、特に産業に関わる神の魂。

伊勢神宮では内宮境内に別宮として天照大御神の荒御魂（荒魂）を祀る荒祭宮が建てられている。この神社は内宮に所属する別宮10社のうち殿舎の規模も他の別宮よりも大きく、第一別宮として正宮に次ぐものである。

神宮では、荒祭宮のご祭神について、神様の御魂のおだやかな姿を、「和御魂」と申し上げるのに対して、時にのぞんで、格別に顕著なご神威をあらわされる御魂のはたらきを、「荒御魂」と称えている。